



発行日
12.09.01
第 365 号
会員 169 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

全日本少年少女武道（剣道） 錬成大会出場選手

武道館特集号です。全国から武の殿堂に集まってくる強豪たちに、厳しい暑さに耐えて猛稽古をやった選手たちの声と、温かく見守っていたくださいた父母会の声です。どうぞお読み下さい。
特集が遅れましたことお許し下さい。また、今回は大変申し訳ございませんが、武道館の選手一人一人の写真が不足して、立ち会いの姿を掲載できませんでした。



先鋒 日高諒久
次鋒 戸田結夏
中堅 岩間 凌
副将 白井俊太郎
大将 梅澤悠吾
補欠 青柳幸作

武道館の試合会場での正面からの出場選手のみなさんと小池先生の写真です。
選手のみなさんが着装している胸は故川崎利美名誉会長からの「誠」の文字の入った記念の胸です。剣友会の子どものみなさん、この「誠」の胸を着装すべく、暑い夏の厳しい稽古に耐え、先生方の厳しい指導を受けての錬成大会への出場です。

やぎの武道館

先鋒 日高諒久

ぼくは 去年はメンバーとして武道館に行き、おとしはぼくとして武道館に行きました。

ぼくは去年よりもおとしよりもがんばってけいをしようにしたいと思いました。

かんとくが小池先生に決まってけい白が決まっていたよ、いよいよがはじまり、やってみると去年よりきびしく、おとしはまだ4年生だったのみんなに、全然ついていけず大変だったと感じたくらい大変でした。

でも去年はじめてばかりの3人には、負けたくなかったし、けいを全て、やりとげたかったのが、がんばってけいに毎回行きました。

そして当日武道館に行き、けいをして、入場行進をして開会式がありました。開会式の後、試合までの間は去年すぐきんちようしておとしは、試合に出ないのにきんちようしてなんとも言えないふんいきでした。でも今年みんなですべたりしてあまりきんちようしませんでした。

そして、試合は基本で3本とられてしまい、絶対に試合は負けないと思っていただけ一本とられてしまい、みんなも負けてしまい、負けてしまいました。

でも、今までがんばれたのは小池先生がかんとくだったからです。

小池先生ありがとうございました。

全日本錬成大会を終えて

日高 久史

長男の諒久が最後の大会参加をさせていただきました。4年生の補欠から始まり、3年間にご指導いただいた先生方、誠にありがとうございます。

最後の大会参加という事もあり、息子も今回は、いつも以上に気合いが入っていた様でした。稽古は、例年以上に厳しく、週4日の厳しいものでした。

厳しい稽古を通して、子供達の涙を見る機会もありました。小池先生の情熱を子供達も感じている様で、皆が一生涯懸命に稽古をしている姿に感銘を受けました。

試合の結果は大変残念でした。結果は出せませんでしたが、稽古・大会を振りかえってみると、勝敗以上の事を子供達は、体験させていただいています。

仕事が忙しい中、全力で指導をしていただきました小池先生ありがとうございました。

由木先生、川崎先生、青柳先生はじめ諸先生方ありがとうございました。

また、父母の皆さんのご協力、誠にありがとうございました。



最後の武道館

次鋒 戸田 結夏

わたしは、最後の武道館でがんばりたい目標がありました。旗を3本上げるといふことと、大きな声を出すということです。大きくキレイにぬけを早くを心がけて、声は見ているお母さんまで聞こえるように大きな声を出しました。そして本番をやったら、自分では今までで一番キレイに大きな声でやることができました。すごくうれしかったです。



中央、優勝旗の近くに並んでいます。まっすぐ正面を見据えての立ち姿です。「誠」の手ぬぐいを締めるのも剣友会の伝統です。天井の照明もこのとき明るくなります。

武道館

この暑い日に先生、子供が剣道をしている姿を見てすごく大変そうだな、と思っていましたが、娘はこのメンバー・先生に出逢えて、すごく辛い練習でも行くのが楽しみだったと言って出て行く姿に幸せな子だなあ、と思いました。そして、少しずつ変化していく娘の剣道がとてもたくましくまた娘が成長する姿を見る事が出来ました。こんな素敵な機会を与えてくださった剣友会、先生、同志、お母様方ありがとうございました。感謝です。

戸田 幸代

「日本武道館」

中堅 岩間 凌

ぼくたち六人は、武道館の試合で、けい古の時、身に付けた力をしっかり発揮できたと思います。

ぼくの、うちこみの時です。始まる前は、どきどきしていたけど、躊躇をしたら、おさまって、試合は、しっかりできたと思いました。でも、旗は、一本しか上がりず負けてしまいました。

その時は、とてもくやしかったです。泣きながら観客席に行くと、友達や先生方が「がんばったな、良かったぞ」と言ってくれたのがうれしかったです。

応援してくれたみなさん、ありがとうございました。これからも、この経験を生かし、がんばって行きます。

父母会の方へ

今年は例年になく猛暑の上、武道館稽古の日程は父母会の皆様にとっても厳しかったのではないのでしょうか。剣道着だけでも夏は大変なのに、更に防具を身につけて稽古です。健康管理も大変だったと思います。有難うございました。今後も「武蔵台剣友会」へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

鍊成・日本武道館へのもう一つの思い

岩間 真奈美

「おじいちゃんのおかげだよ。」と電話で報告をしている凌。父はきっと胸を熱くしていたことと思います。

父は、兄達の剣道の稽古の日々を父母会として身を尽くしていた事を幼い私の瞳にも焼きついています。剣道の精神に自分の子育てを重ね、親として尽力の総てを果たしているようでした。

時代はめぐり、孫三人が少年少女剣士となり稽古に励む日々を、また兄達も段を重ね指導にあたり、子ども達を育てています。

時を待ち、凌が武蔵台剣友会で剣道を始める事が出来たのも、父の思いが巡り合わせてくれたのだと信じています。

凌が剣士として日本武道館に立っている姿を見て、父への思いが込みあげて静かに涙がつたいました。

この日に向け、生活に気をつけ、家でのトレーニングを怠らず、ウエイトを下げ意識を高く持ち、挑んでいった姿勢を誇りに思います。たくましく、勇ましく、カッコ良い姿でした。



鍊成大会（武道館）特集号



発行日
12.09.01
第 366 号
会員 169 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

武道館の感想

副将 白井 俊太郎

ぼくが武道館へ行ったのは、3回目です。ぼくが副将と言われたとき、ぼくは大将につなげようと思いました。

武道館練習を始めたとき、最初はないてたりしてつらかったけど、だんだん途中からなってくる、なれました。

だけど、途中でアキレス腱を痛めてしまいました。練習を二回やすんで、とてもくやしかったです。

その後、治ったのでほっとしました。試合前日はきんちようして眠れませんでした。試合当日もきんちようしました。ぼくは高麗神社のとき絵馬に今までのせいかを出しきると書いたので試合のときは大きい声を出しました。結果はどうであれ、せいかを出きったので、自分ではまんぞくしています。

武道館でやりたかった事

大将 梅澤 悠吾

ぼくの本大会の目標、「初太刀をとって勝つ。」この目標を胸にぼくは試合に挑みました。

審判の「始め!」と言う声がかかりました。ぼくは気合を出し、面に飛びました。しかし、相手の方が早かったので小手を打たれてしまいました。ぼくは試合が終わった後に呆然としてしまいました。なぜ呆然としてしまったかというと自分の面が相手に決まると思っていたからです。

この試合のように面より先に小手を決められるのではなく、相手より速く面が届くような初太刀をとれるようになりたいです。

この試合は、自分から打ったので初太刀をとったつもりでしたが、ぼくは相手より先に打って決めるという打ちを初太刀をとると言う事にしたいです。

小池先生をはじめとして教えて下さった先生方、ありがとうございました。

この試合には負けてしまったけれど前よりも剣道が好きになったので良かったです。

錬成大会を終わって

白井 浩

お忙しい中、お仕事を犠牲にして、ご指導いただきました小池先生。優しい心使いで子供の心を和ませてくれた青柳先生。暑い中、毎回のようにご指導していただいた由木先生を始めいくどなく、優しい言葉をおかけいただきました諸先生、諸先輩の方々のおかげで武道館の舞台に立つ事ができました。本当にありがとうございました。

子供達にとってこの夏の思い出は一生消えないものとなるでしょう。苦しかった練習の事。本番前の緊張感。これらの経験はお金で買えるものではない一生の宝である事は今の子供達には、わからないかも知れません。でもいつの日にか成長したら子供の口から「おやじ、剣道やってきてよかったよ。」と聞けることを信じて新たなスタートの日としたいと思います。

錬成大会を終えて

梅澤 陽子

五月から息子にとって、待望の武道館稽古が始まりました。

昨年は入門したばかりで、右も左もわからず武道館へ憧れの気持ちを持って応援しに行きましたが、今年は選手として試合に出られると言う事で、親子共々身の引き締まる思いでした。

週4日の稽古。暑い日も台風の日も休まず稽古に励みました。小池先生の「子供達を勝たせてあげたい!」と思う気持ちが、厳しい稽古の中にも愛情として伝わり、皆頑張ってくれたのだと思います。

試合は一瞬で終わってしまいました。もう少し長くその姿を見ていたい気もしましたが、やりたかった事は十分に伝わった試合でした。

結果は負けで残念でしたが、今回感じた思いを次に生かしてほしいものです。

親は今だ、武道館モードから抜けきらない一方で息子の意識は、早くも次の試合に向かっています。我が子ながら頼もしいものです。

最後になりましたが、小池先生をはじめとして諸先生方、親身になってご指導いただきありがとうございました。そして、武道館組の父母の皆さんと供に親としてかわる事が出来て本当に嬉しく思っています。また皆で集まりたいですね。(武道館の思い出は話すとつきないものですから……)



発行日
12.09.01
第 367 号
会員 169 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

はじめての武道館

補欠 青柳 幸作

ぼくは、武道館に補欠として行きました。ぼくは武道館がいこはじめてだったので、どんなけいこをやるのか楽しみでした。週四回のけいこは、とてもつらく、きびしかったです。が、六年生の先ぱいと仲良くなれてたのしかったです。

かんとくの小池先生に、「試合に出れない分、けいこをたくさんつけてやるな。」と言われて、うれしかったので、一生けん命がんばりました。

試合当日は、ぼくが思った以上に人がたくさんいて、びっくりしました。試合では、みんなが勝てるように、応援していました。みんなは練習よりも、声が出ていて、すごいなあと思いました。

来年は、今年出れなかった分頑張りたいと思います。

武道館錬成大会に参加して

監督 小池 俊久

今年は六年生中心のまとまった、チームでした。五月下旬から武道館に向けて稽古を始めました。

当初は週三回を予定いたしましたが、ご父兄のお力添えで一日増やすことができた稽古量もぐっと上がりました。選手達は皆良く頑張って自分のこととして一生懸命取り組んでくれました。監督として一番嬉しかったことです。演武については今まで、また、昨年の内容を聞きながら選手たちが大きく見えるよう何度も練り直しました。これでいいのかなと言う気持ちもありましたが自信を持って臨むことが大事だから良しとしました。選手達の元気な声と笑顔に助けられご父兄、関係諸先生の多大なご協力をいただき無事大会に参加することが出来ました。改めて御礼申し上げます。

結果を選手達がどう受け止めたかはわかりませんが何年か先にそれぞれが答えを出してくれると信じています。ありがとうございました。



全日本錬成大会を終えて

青柳 みゆき

今年のチームは、選手五人が六年生という事もあり、お互いに良い意味で刺激し合っていました。家で素振りをする子、足の痛みを耐えて練習に参加する子、思う様な練習が出来ずに泣しながらも先生に向かっていく子、監督も選手も懸命に練習に取り組んでいました。小池先生の「武道館で勝たせたい。」の熱い思いに、子ども達が必死に向かっていく、そんな姿に心を打たれ一生懸命サポートをして下さる諸先生方や父母会の皆様。想いが一つになって創り上げられた素晴らしいチームでした。

厳しい練習に本気で取り組んで、やり遂げた自信は、子ども達を逞しく成長させました。武道館に臨む選手達からは「全てを出きる」という気迫が伝わってきました。応援席まで届いた気合いが、努力の証です。

「武道館で勝つ」という目標は来年に持ち越しとなりましたが、子ども達は年を重ねても、錬成大会という日を何度も思い出します。

今回、本気で子供達に向き合って下さった小池先生、諸先生方、先輩方、父母会の皆様の協力があって、子ども達も私自身も貴重な経験が出来た事を心から感謝いたします。ありがとうございました。